

## 英語俳句シキ・メーリングリスト（1994–2013）と大学情報センター・海外俳人・地方自治体の相互関連

墨岡 学<sup>1</sup> 和田 武<sup>2</sup> ボグダン ディビッド<sup>2</sup> 内原 大輔<sup>3</sup>福泉 秀人<sup>3</sup> 檀 裕也<sup>1</sup>松山大学<sup>1</sup> 愛媛大学<sup>2</sup> 福泉<sup>3</sup>

## 1 次のシーズンに向けて

世界の俳句愛好家のために愛媛県松山市在住者がこれまで運営にたずさわってきた俳句メーリングリストについて、1994年から過去20年近くの内部情報を公開する。原理論と方法論にわけ、俳句情報システムに携わる問題点を論じる。

## 2 インターネットに拠点がある英語俳句メーリングリストの原点と現在

インターネット上にある英語の俳句メーリングリストの数を検索等で調べると、現在数千以上存在するがわかる。この歴史と現状について解説する。

1994年に誕生した Shiki list の遺産を現代に受け継いだものは、ベルギーの Serge Tome 氏に依頼した Nobo-temp しかない。このメーリングリスト Shiki list の原点は、1994年7月に松山大学の情報処理室にあった小さなワークステーション上で cc.matsuyama-u.ac.jp/~shiki の個人名で構築された。実装に関わった人物で技術面を主に担当した Fred Bremmer は構築の翌年日本を離れた。Bremmer と Sumioka の2人が Web の可能性と Mailing list の将来性を見据え、「Haijin -> Mail -> (Web + Mailing list) -> Haijins + Haiku groups」のスキーマを構築し世界の俳人と俳句グループを育てる計画を実行した。

話は前後するが、我々が俳句をテーマにするきっかけを作った愛媛県庁の職員らとともに、このシステムを「The Shiki Internet Haiku Salon」と命名し、1994年7月7日午後7時に Usenet にあった poetry 関連のグループに参加を呼びかける案内を投稿した。この投稿日時には、アジ

The SHIKI (1994-2013) English Haiku Mailing List and its relationships with university computer centers, local agencies, and haijin around the world.

1「墨岡 学、檀 裕也・松山大学」Manabu Sumioka, Yuya Dan, Matsuyama University

2「和田 武、ボグダン ディビッド・愛媛大学」Takeshi Wada, David Bogdan, Ehime University

3「内原 大輔、福泉 秀人・福泉」Daisuke Uchihara, Hideto Fukuizumi, Fuxcen Co.,Ltd.

ア起源の七夕を印象づける意図があり投稿文には松山で英語教師をしていたカナダ人の英語俳句を添付した。やがて、このサイトは Shiki team と名付けたグループによって維持されることになった。それから約20年近くの月日が過ぎた。Shiki list の遺産を継いだ Nobo-temp は、Yahoo! の中にある。

Yahoo! Groups を詳しく調べてみると英語俳句は、次のカテゴリーに分類されている。

All/Entertainment & Arts/Humanities/  
Books and Writing/Genres/Poetry/Haiku

ここには、約180のグループが登録されている。20数名以下の小規模グループが全体の約50%を占めている。また、ほぼ毎日投稿がなされているグループは、約17%である。特に参加者数が100人以上の35グループのうちの14グループは、毎日投稿が行われている活動的な俳句グループである。参加者数が100人以上のグループでは、そのうちの4割がアクティブであるといえる。

Nobo-temp は、2011年10月から約40名の参加者である。ただし、Nobo-temp は運営をまかせた Serge Tome 氏が参加資格を判定し、インターネットには非公開となっている。

## 3 松山を世界の俳句メッカにしようとした動き

もともと松山でエレクトリック・フロンティアを志す有志の集まりからこの活動がはじまった。Web で地方から世界に向けて情報発信ができる技術を広めたいという主旨の記事を、1994年4月発行の愛媛県中小企業情報センターの広報誌に投稿したところ、それを読んだ県庁職員が国際交流センターで英語俳句活動をしていた人々を紹介してきたことによって Shiki team が発生し Shiki Haiku Salon が誕生することとなった。Shiki list は、2000年12月末まで運営されたがその間の投稿数は7万3千通を超え、Shiki list はそれまで無名であったのがインターネットのなかでは英語俳句の中心となったのであった。それには William J. Higginson らの協力が大きかった。

#### 4 カント『判断力批判』より「俳句を生む方法論について」

18 世紀後半のドイツ社会のなかでカントは『判断力批判』第 2 部の付録で次のように述べている。

... first discovered the art of reciprocal communication of ideas between the amplitude and refinement of the former and natural simplicity and originality of the latter – in this way hitting upon that mean between higher culture and the modest worth of nature, that forms taste also, as a sense common to all mankind, that true standard which no universal rules can supply.

(Immanuel Kant, ‘*Critique of Aesthetic Judgement*’, translated by James Creed Meredith, Minerva Classics の 60 Appendix. The Methodology of Taste より引用)

これを江戸から近代の日本に喩えれば、貴族たちの教養であった和歌を詠むこと、心の動きを言葉にして楽しむことを、芭蕉らの俳諧師が、富裕層のグループの誕生に対し、俳諧という形式でそれを表すことを指導しそれを生業となし、さらに明治になり西洋文明に触れた正岡子規らが俳句という短詩型文学の構成法を作ったことになるといえないだろうか。

コンピュータとインターネットが日常品と化した現代においては、高い教養を持つ層と自然のままにある性の単純な層との間でのコミュニケーションが原理的に容易となったといえる。そこで生み出された技術の一つがメーリングリストであった。

Shiki team が 1995 年から初心者を対象にして英語俳句の創作方法をメーリングリスト(Shiki list)で提案、議論してきた。そこで実験されたのは英語俳句コンテスト、各種テーマについてのワークショップであったが、そこで Shiki team が取った方法は、決して良い俳句を選ぶためだけではなく、すぐれた俳句を生み出すためのメーリングリストという技術の応用であった。

#### 5 協力者とサーバの継続性問題

Shiki team は、県庁、国際交流センター、新聞社、テレビ局、大学情報センターに所属する人々からスタートした。国内外での宣伝活動は特に行わなかったが米国の俳句団体などが Shiki list をよく利用していたことから、継続性の責任は重かった。保守作業で半日でも停止すると、すぐに参加者から問い合わせ届いたほどであった。現在、事情で大学の情報センターでは運営できなくなったため、松山市のホームページ制作会社の協力を得て、2014 年 4 月を目途に新しく開設しようとしているところである。

#### 6 ネットに投稿された俳句の著作権問題

次の英文は、Shiki list archives の先頭に置かれた投稿された俳句の著作権について、Shiki team が運営するサイト以外の場所でそれを引用するには原作者の了解が必要であることを示す。

Copyright of all material posted on the Shiki mailing list belongs to the individual authors. The use of posts in whole or in part, outside the context of the Shiki mailing list, its archive, and the bi-weekly Ku Kai Report requires prior permission from their authors.

On the mailing list, earlier messages may be quoted for the purpose of discussing and commenting on their contents. Care should be taken to attribute quotes properly to their original authors.

The Shiki Team maintains the Shiki Mailing List Archive on computers at Matsuyama University, where whole, unedited posts can be found on the World Wide Web at <http://cc.matsuyama-u.ac.jp/~shiki/shiki.archive/> within the Shiki Internet Haiku Salon Web pages.

1994 年にメーリングリストを開始した当時は、まったく俳句をつくった作者について配慮することなく無邪気に投稿をツール hypermail によって html 化し Shiki Haiku Salon にリンクしていた。便利なツールを利用して自動化し、それが安定してしまうと管理者はそこをシステムに任せ人間としての目配りがなくなる。その結果、システムだけの管理者となってしまった。これは、著作権というような法的な権利のことだけではなく俳句作者の気持ちを思いやることに至らなかった結果が招いたネット上の論争であった。重要な運用経験のひとつとして深く反省する。

また、この論争は、いわゆるメーリングリストのモデレータとシステムの管理者が同一であったことにその原因のひとつがあった。

#### 7 ソーシャルネットワークサービスの寿命

下記に引用した木田元の言葉を解釈すると、人間の理性、それが生み出した科学、それを実生活に応用した技術という流れで理解することは実は間違いであって、技術は理性よりももっと古い起源を持つという意味である。

It was not humans who created technology, but rather technology that made us human.

(Gen Kida, ‘*The True Nature of Technology*’, translated by Michael Emmerich, Deco, p.61 より引用) 英語俳句の世界において、インターネットの初期に Shiki list を通して世界各国の HAIKU 愛好家に HAIKU 交流の場を提供し、さらにそこから有能な HAIJIN を生み出したことは我々にとっても非常に幸運なことであった。しかし、日々の常用携帯ツールと化した SNS を人間の内心と深く関わる HAIKU 世界につなげる課題がある。